

体の中でどうなるの？

夢中になって繰り返し遊んでいる子どもたちは、感じたり気付いたりしたことを自覚し、豊かに表現します。疑問に思ったことや考え、発想したことを友達や保育者に伝えようと、表現する姿もあります。この事例の子どもたちは、タマネギの皮やその色水の変化に興味をもったことをきっかけに、色水遊びをしながら探求を深めています。表現を見取ることにより、細やかな感性や新たな考え・発想が引き出される創造性の芽生えが把握できます。

子ども（5歳児）

千代川保育園

場面1【興味・関心】 タマネギの皮「もったいない」

6月

タマネギの収穫を体験した子どもたちは、タマネギの皮むきに喜びを感じながら昼食調理の手伝いをする。大量のタマネギの皮を見たAさんは「もったいないな」とつぶやく。その声を聞いた子どもたちは「ほんまやな」「何か使えへんのかな？」と言い、**考え始める**。「明日の水遊びの時に使ってみる？」と子ども同士で話がまとまる。翌日、タマネギの皮でジュース屋ごっこをする。更に翌日も遊び始めると、遊ぶ子どもたちは「**色が濃くなっている！**」と驚く。

場面2【気付き】 タマネギの皮で水遊び「色が濃くなった」

3日目、子どもたちは「茶色くなった」「匂いがウィンナーみたい」「ちょっと臭い」「タマネギの皮の色と似てる」と話す。色が出た水を眺めていたBさんは、お泊り保育でのTシャツ染めの経験を思い出し、「**服入れたらどうなるかな？**」とつぶやく。「何色に染まるか？」と話題になり、赤色、橙色、茶色、黒色と4色の色がでる。子どもたちはTシャツ染めの経験を振り返り、「**もう一晩置いてみよう**」と話がまとまる。



場面3【探求】 他の野菜の皮で試す「染まるかな？」

7月

翌日観察へ出掛けると「茶色や！」「**タマネギの皮と同じ色になってる！**」と驚いた様子。「すごいなあ」「他の野菜はどんな色が出るんやろ」と、子どもたちは**他の野菜の皮で試してみたい**という気持ちが高まった。「どの野菜がいいかな」と考え、ニンジン、ナス、トマトなどの食卓に出てくる野菜が挙がる。最終的にニンジンとナスで試してみようと意見がまとまる。

- ① ニンジン: オレンジ色が出るだろうと予想した。タマネギの皮と同様、手で絞り、押し、地面で擦る。3日程置くが、ニンジンからは色は出ない。
- ② ナス: 紫色が出ると予想した。手で絞り押しすと水が黄色っぽくなる。予想とは異なる結果に子どもたちは考え始める。もう一度、皮をじっくりと観察し「外は紫やのに、中は黄色やで」「中の色が出たんちゃうかな」と会話する。皮の外側を地面に向けてこすっていた子どもが、紫色を出すことに成功する。それを真似て皮を使うと色が出る。地面では色の違いが見えにくかった子どもが、白い紙を使い楽しみ始める。ナスも一晩水に浸ける。翌日、水が黒くなり腐ったような匂いがする。子どもたちはその様子を見て、「黒っぽくなってる」「でも臭い」「腐ったんとちゃう」「見て！皮丸まってる」と話し合う。



場面4【発想】 野菜ソムリエ「体の中でどうなるんだろう？」

8月

給食でよく食べる野菜、ニンジン、ナス、サツマイモ、ジャガイモ、キュウリを、水以外の塩水や酢水に浸して試すなどして、「色が出る・出ない」に満足感を得た子どもたち。「**この色食べたらどうなるだろう**」「**口に色が付くんちゃう？**」「**体の中でどうなるんやろう**」と考え始めた。野菜の皮の色に着目していたが、**野菜自体に興味湧き、野菜について調べ**、どんな料理に使われているのかという話で盛り上がる。

場面5【創造】 野菜の絵本作り「野菜のこと教えてあげるね」8月～11月

野菜についていろいろなことを調べた子どもたちは、**年下の子どもや他のクラスの子に教えたいたい**と思い、**調べたことを絵本にする**。「この野菜を食べてもらうにはどんな料理がいいかな」「こんなメニューに入ってる」「絵で描いたら分かりやすいかな？」と、**分かりやすい絵本にしよう**と考え、話し合って作る。



保育者は、子どもの姿を読み取って援助することを心掛けていても、「思いに添っているのか?」「体験は深まっているか?広がっているか?」と、保育に悩む場面があります。例えば、「子どもたちは興味の対象への探求を重ねる」と保育者が予想しても、対象が広がることで遊びの展開が変わる場合があります。自分たちで問題や疑問に取り組む子どもたちは、保育者の予想できない発想で試行錯誤を重ねることがあります。この事例の保育者は、予想とは違う姿を手がかりにすることで、豊かな発想を実現しようとする子どもたちの創造性を育くむ実践をしています。

保育者（予想する姿と違う）

千代川保育園

見取り 1【関わりを楽しむ】 タマネギの皮に積極的に関わっている（P.24 場面1）

前年度の5歳児が調理の手伝いでタマネギの皮むきをしたいと言いき楽しんだ姿を見ている。今年度も続いている。タマネギの収穫を体験した子どもたちは興味が深まり、タマネギの皮むきに喜びを感じていた。たくさん皮を見て「もったいないな」「何か使えへんのかな?」と次々と考え、色水遊びに使うことになった。**タマネギの皮をむいた環境を保存する。**

見取り 2【経験振り返る】 タマネギの皮で色水遊び（P.24 場面2）

タマネギの皮を浸した水を見て、子どもたちは「茶色くなった」「タマネギの皮の色と似てる」と言う。色が出た水から、お泊り保育の時の染粉でのTシャツ染めの経験を思い出し話題になる。**タマネギの皮での色水遊びが継続できるように環境を確保する。**



見取り 3【興味の広がり】 いろいろな野菜の皮で試す（P.24 場面3）

給食でよく食べる野菜、ニンジン、ナス、サツマイモ、ジャガイモ、キュウリを子どもたちが使えるようにする。野菜で色を出したり染まるのか試したりする。子どもたちは、いろいろな野菜の色や色水遊びに体験を広げていこうと予想し、**自分たちで使えるように準備する。**

見取り 4【探求の深まり・広がり】 もっと野菜を知りたい！（P.24 場面4）

子どもたちは、「この色食べたらどうなるだろう」「口に色が付くんちゃう?」「体の中でどうなるんやろう」と考え始めた。野菜の皮の色に着目していたが、野菜そのものに興味が湧き、野菜について調べたり考えたりする。どんな料理に使われているのか、友達と話す。

染色に展開するという保育者の予想とは違う展開になる⇒見通しの修正、環境の工夫を図る。

- ◆「知りたい」「調べたい」という思いに添う絵本や図鑑、情報を得られる環境設定をする。
- ◆子どもの思いに添って絵本作りができる環境を保障する。

見取り 5【発想・表現】 「野菜の話を伝えよう」絵本作り（P.24 場面5）

クラスの枠を超え、知りたい野菜、伝えたい野菜の絵本作りをし、異年齢の子どもたちに話す遊びが続く。子どもの表現したいことや伝えるために考えていることを受け止め、認める。

子ども同士の交流の場ができるように、保育者間の連携を図る。



子どもの表現を捉える〈体験や気づきの変容〉（見取り1～3⇒見取り4～5）

いろいろな野菜に興味をもち、色を出したり染めたりする。

- ・ どんどん色が変わっていく
- ・ 皮が柔らかくなっていく
- ・ 指にも色が付いてる!
- ・ あまり匂いしない
- ・ 皮が硬い野菜からは色は出ないのかな
- ・ ペラペラの皮からは色が出るのかな
- ・ 皮の内側がヌルヌルの野菜は色が出ると思う

野菜には美味しい料理があり、食べると元気になることを知る。知って良かったことを伝える。

- ・ ジャガイモはカレー、キュウリは塩が美味しい
- ・ ニンジンはいろいろな料理に入っている
- ➡ **野菜を食べると元気になるんだ**
- ・ この野菜を食べるには、どんな料理がいいかな
- ・ 絵で描いたら分かりやすいかな?絵本にしよう
- ・ どうしたら分かりやすくなるかな?
- ・ いろいろな野菜を、もっと知りたい